

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4612		
科目名	危機管理特殊研究 2		
担当教員	吉富 望		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 2		
講義室	1209	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 3－H [論理的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 4－F [探求力・問題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 6－K [表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L [協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連携を強めることができる。 D P 8－M [省察力] 知識と経験とを関連づけ、学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門知識（25%） H 1 論理的思考（20%） F 1 探求と論拠（20%） F 2 課題解決（10%） K 1 ライティング・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（5%） M 1 総合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	■ 経験した実務の内容 陸上自衛隊に32年間勤務し、この間、第一線部隊において部隊運用に関わる実務に約11年間従事しました。また、内閣官房内閣情報調査室、防衛省防衛局、防衛省情報本部、陸上幕僚監部といった中央機関で防衛力整備、部隊運用、戦略情報に関わる実務に約11年間従事しました。加えて、防衛大学校、陸上自衛隊研究本部、陸上自衛隊小平学校などで教育及び研究開発の実務に約10年間従事しました。 ■ 実務経験をどのように活かした授業にするか 本演習では、基本的に教科書を用いて日本の国際平和協力活動の変遷に関する学識・専門技能の習得を図りますが、教科書に書かれていない国際平和協力の現場の状況について実務経験に基づいて教育します。このことで、生きた学識・専門技能を習得するとともに、日本の国際平和協力活動の変遷を正確に把握し、これに関する情報を適切に理解する力を高めます。【第2～15回】		

成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成につながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。担当する実務教員が、自らの実務経験に基づいたテーマの科目を設定し、学生が自らのキャリア形成に役立つ科目を選択します。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、危機管理に関する実務についての知識を修得するための基礎的な指導を行います。授業形式は演習により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 安全保障、国際平和協力、自衛隊
授業の趣旨	■副題 日本の国際平和協力活動の変遷を学び、世界の平和と安定によって日本の危機管理に寄与することの重要性を理解する国際的な危機管理パーソンになりましょう。 ■授業の目的 生存と繁栄に不可欠の資源や食料の大部分を外国に依存し、経済的利益の大部分を貿易によって得ている日本にとって、世界の平和と安定は日本の危機管理にとって死活的に重要です。しかし、日本社会では平和協力活動に関する偏見や誤った認識も多く、世界が求めている平和と安定のための活動と日本の国際平和協力活動との間には大きなギャップが生じています。本演習では日本の国際平和協力活動の変遷を丁寧に学び、現実在即した議論ができる素地を養います。 ■授業のポイント 日本の本格的な国際平和協力活動の出発点は、1992年のカンボジアでの国連PKOへの自衛隊部隊の派遣です。この派遣に向けて日本政府はPKO派遣五原則を策定しましたが、この五原則は、国家再建を目的とする当時の国連PKOの実情に概ね合致しており、国際平和協力活動における自衛隊の有効活用の促進剤となりました。しかし、最近の国連PKOは、内戦やテロ組織による攻撃から民間人を武力を用いてでも保護することに重点がシフトしています。1992年当時のままのPKO派遣五原則を維持しては、自衛隊がこうした最近の国連PKOに参加することは不可能です。また、自衛隊以外による日本の国際平和協力活動も、テロなどに対して安全を確保することが難しくなっており、低調な状況です。こうして、日本による世界の平和と安定への寄与度は低下を続けています。果たして、このままでいいのでしょうか。 多くの国民は日本が世界の平和と安定に協力することの重要性を忘れ、国際平和協力活動に対する無関心や偏見が蔓延するに至っています。このことは、世界の平和と安定に自らの生存と繁栄を依存している日本にとって由々しき事態と認識する必要があります。日本では、高校までの学校教育で国際平和協力活動に関する教育は皆無に等しいため、本演習では日本の国際平和協力活動の変遷を学んで、観念論や偏見を排した考察を行う素地を養います。その素地を基礎にして危機管理特殊研究3～4へと進みます。
総合到達目標	■一般総合目標（GIO） 日本の国際平和協力活動に関する学識・専門技能を身につけるために、1992年のカンボジアPKO派遣以降の変遷を理解する。また、論理的思考力を高めるために、日本の国際平和協力活動に関する多角的な分析力を養う。 ■個別行動目標（SBOs） SBO1 日本の国際平和協力活動の変遷を説明できる。（第2～3回、第6～13回） SBO2 今後の日本の国際平和協力活動のあり方について意見を述べることができる。（第14回） SBO3 日本の国際平和協力活動に関係する国内外の情勢について説明できる。（第2～14回）
成績評価方法	■情勢レポート13回（30%）：適用ルーブリック E1・F1 （評価の観点）世界や日本の国際平和協力活動にとって重要な新聞記事を発見し、その重要性を説明でき、今後の推移について適切に考察しているかを問います。（口頭説明） （フィードバックの方法）その場で教員がコメントします。 ■教科書レポート12回（50%）：適用ルーブリック E1・H1・F1・F2・K1 （評価の観点）教科書の該当する章の内容全般を正しく把握し、その中で特に重要な部分を指摘できるとともに、教科書の内容で疑問のある部分を見出せるかを問います。（A4用紙1枚以内） （フィードバックの方法）その場で教員がコメントします。 ■授業参加度（発言等）15回（20%）適用ルーブリック F1・F2・L1・M1 （評価の観点）質問やコメントを積極的に発しているかを問います。 （フィードバックの方法）その場で教員がコメントします。
履修条件	危機管理特殊研究1受講者

履修上の注意点	国際化した日本社会で活動する危機管理パーソンとして、国際平和協力活動について適切に説明できる見識を持っていることは不可欠です。日本では学ぶ機会の少ない国際平和協力活動を基礎から学んで、真の危機管理パーソンを目指しましょう。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマ：導入 ② 授業概要 (1) 学生自己紹介、学生役割分担 (2) 授業の進め方 ・ 情勢レポート ・ 教科書レポート ・ 学生間の質疑応答 ③ 予習 (200分) 日本の国際平和協力について調べる ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
	2	① 授業テーマ：国際平和協力の見取り図 ② 授業概要 (1) 情勢レポート ・ 過去 1 週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。 (E 1, F 1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書序章「国際平和協力の見取り図」の設問 1 及び 2 について記述し、発表する。 (E 1, H 1、F 1、F 2、K 1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書序章を読んで設問 1 及び 2 に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
	3	① 授業テーマ：国際平和活動の歴史と変遷 ② 授業概要 (1) 情勢レポート ・ 過去 1 週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。 (E 1, F 1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第 1 章「国際平和活動の歴史と変遷」の設問 1 及び 2 について記述し、発表する。 (E 1, H 1、F 1、F 2、K 1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第 1 章を読んで設問 1 及び 2 に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
	4	① 授業テーマ：国際平和活動をめぐる概念の展開 ② 授業概要 (1) 情勢レポート ・ 過去 1 週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。 (E 1, F 1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第 2 章「国際平和活動をめぐる概念の展開」の設問 1 及び 2 について記述し、発表する。 (E 1, H 1、F 1、F 2、K 1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック

	③ 予習 (200分) 教科書第2章を読んで設問1及び2に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
5	① 授業テーマ：日本の国際平和協力政策の起源と展開 ② 授業概要 (1) 情勢レポート - 過去1週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1, F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第3章「日本の国際平和協力政策の起源と展開」の設問1及び2について記述し、発表する。(E1, H1, F1, F2, K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第3章を読んで設問1及び2に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
6	① 授業テーマ：日本の国際平和協力の現状と課題 ② 授業概要 (1) 情勢レポート - 過去1週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1, F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第4章「日本の国際平和協力の現状と課題」の設問1及び2について記述し、発表する。(E1, H1, F1, F2, K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第4章を読んで設問1及び2に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
7	① 授業テーマ：カンボジア：「統合化」に向けた前哨戦 ② 授業概要 (1) 情勢レポート - 過去1週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1, F1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第5章「カンボジア：「統合化」に向けた前哨戦」の設問1及び2について記述し、発表する。(E1, H1, F1, F2, K1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第5章を読んで設問1及び2に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
8	① 授業テーマ：東ティモール：「統合化」への適応と「積極化」への課題 ② 授業概要 (1) 情勢レポート - 過去1週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1, F1) - 学生間の質疑応答

	・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第6章「東ティモール：「統合化」への適応と「積極化」への課題」の設問1及び2について記述し、発表する。(E1, H1, F1, F2, K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第6章を読んで設問1及び2に回答(各設問800字以上) ④ 復習(40分) 授業の内容を再確認
9	① 授業テーマ：インド洋（アフガニスタン）：湾岸戦争の教訓と米国への貢献 ② 授業概要 (1) 情勢レポート ・ 過去1週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1, F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第7章「インド洋（アフガニスタン）：湾岸戦争の教訓と米国への貢献」の設問1及び2について記述し、発表する。(E1, H1, F1, F2, K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第7章を読んで設問1及び2に回答(各設問800字以上) ④ 復習(40分) 授業の内容を再確認
10	① 授業テーマ：イラク：進んだ「統合化」と迷走した「積極化」 ② 授業概要 (1) 情勢レポート ・ 過去1週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1, F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第8章「イラク：進んだ「統合化」と迷走した「積極化」」の設問1及び2について記述し、発表する。(E1, H1, F1, F2, K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第8章を読んで設問1及び2に回答(各設問800字以上) ④ 復習(40分) 授業の内容を再確認
11	① 授業テーマ：ハイチ：地震災害救援から国連PKOへの切れ目のない支援 ② 授業概要 (1) 情勢レポート ・ 過去1週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E1, F1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート ・ 教科書第9章「ハイチ：地震災害救援から国連PKOへの切れ目のない支援」の設問1及び2について記述し、発表する。(E1, H1, F1, F2, K1) ・ 学生間の質疑応答 ・ 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習(200分) 教科書第9章を読んで設問1及び2に回答(各設問800字以上) ④ 復習(40分) 授業の内容を再確認
12	① 授業テーマ：南スーダン：自衛隊に「文民の保護」はできるのか ② 授業概要

		(1) 情勢レポート - 過去 1 週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E 1, F 1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書第 10 章「南スーダン：自衛隊に「文民の保護」はできるのか」の設問 1 及び 2 について記述し、発表する。(E 1, H 1、F 1、F 2、K 1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書第 10 章を読んで設問 1 及び 2 に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
13		① 授業テーマ：日本の国際平和協力の課題と展望 ② 授業概要 (1) 情勢レポート - 過去 1 週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。(E 1, F 1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 教科書レポート - 教科書終章「日本の国際平和協力の課題と展望」の設問 1 及び 2 について記述し、発表する。(E 1, H 1、F 1、F 2、K 1) - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書終章を読んで設問 1 及び 2 に回答 (各設問800字以上) ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認
14		① 授業テーマ：現場から見た日本の国際平和協力 ② 授業概要 (1) 部外レクチャー - 多くの国際平和協力活動に参加した部外講師 (自衛官) の視点から、日本の国際平和協力の課題と展望に関するレクチャーを受ける。(E 1, F 1) - 学生との質疑応答 - 部外講師及び担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック (2) 部外講演レポート - 部外講師のレクチャーの概要及び所感についてレポートを作成する。(E 1, H 1、F 1、F 2、K 1) - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習 (200分) 教科書全体を読み返しておく。 ④ 復習 (40分) 授業の内容を再確認

	① 授業テーマ：卒業論文（卒業研究）のテーマ検討 ② 授業概要 （１）情勢レポート - 過去１週間の新聞記事から世界や日本の平和にとって重要と思う記事の一つを選び、内容の概要及び重要と判断した理由を解説し、今後の推移について見解を述べる。（E 1, F 1） - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック 15 （２）卒業論文（卒業研究）のテーマ - テーマ、テーマ選定の理由、参考文献について発表（E 1, F 1） - 学生間の質疑応答 - 担当教員の実務経験を踏まえたコメントを含めてフィードバック ③ 予習（200分） 卒業論文（卒業研究）のテーマ、テーマ選定の理由、参考文献について発表できるよう準備する。 ④ 復習（40分） 指導内容を再確認し、卒業論文（卒業研究）のテーマについて確定する。
関連科目	「危機管理特殊研究 1 RMGT4611」、「危機管理特殊研究 3 RMGT4513」、「危機管理特殊研究 4 RMGT4514」と密接に関係します。
教科書	■上杉勇司／藤重博美編著『国際平和協力入門』ミネルヴァ書房、2018年5月15日。
参考書・参考URL	■篠田英朗『平和構築入門』ちくま書房、2013年10月10日。 ■本多倫彬『平和構築の模索』内外出版、2017年9月29日。 ■上杉勇司等編「世界に向けたオールジャパン：平和構築・人道支援・災害救援の新しいかたち」内外出版、2016年3月31日。 ■防衛省『令和４年版防衛白書 日本の防衛』日経印刷、2022年8月31日。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 危機管理特殊研究 1 と同じです。 ■オフィスアワー 月曜日 5 限。なお、研究室に不在の場合もあるので、事前にメール等でアポイントメントを取ることをお勧めします。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント5%：グローバルセキュリティ95% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

